

# 2010 北海道トレセン U-11 冬季交流大会（8人制） 報告書

期日 平成 23 年 2 月 5・6 日

会場 北村土里夢・三笠ドーム

## 1. 参加選手（17名）

山崎悟依、津田和哉、山本涼太、岡田良太、平川雄基（T.WEST）、金子凌大、山本昂汰（ドリーム）  
川端一輝（Rシュペルブ）、鈴木泰輝（愛国）、土井雅也、廣田優太、菊池龍之介（遠矢）、  
橋本海翔、山田哲大（コンバット）、八重樫健吾（朝陽）、浅井一輝（城山・清明・武佐）、  
川原大輝（阿寒）

## 2. スタッフ

後藤雅宏、新谷昭典、本間彰、高橋雄一

## 3. はじめに

U-11 年代としては初めての全道交流大会ということで、現段階までのトレーニングの成果と課題の確認を行う最適な場であった。選手は冬季トレセン参加者から 4 名の北北海道トレセン参加者をのぞく全員とした。（1 名キャンセル、1 名インフルエンザによる二日目不参加）

インフルエンザ流行のため、その対策としてマスクの着用と手の消毒を行った。

初日は 4 チームによるリーグ戦、二日目は順位によるリーグ戦を行った。

選手のコンディションが悪い選手が多くなってしまった。大会前および期間中に、負傷や病気により試合に出ることができなかった選手が多くなり、最終的には FP12 名、GK2 名という状態になってしまった。

## 4. 対戦結果

予選リーグ	順位リーグ（4 位）
V S 旭 川 2 - 2 △	V S 道 北 2 - 6 ●
V S 札 幌 0 - 7 ●	V S 根 室 1 - 5 ●
V S 小 樽 0 - 3 ●	V S 北空知 3 - 2 ○

## 5. 成果と課題

### <成果>

#### ○ポゼッションの意識

⇒ GKを含めたポゼッションを高めながらボールを失わずに攻撃を組み立てる意識が身に付いてきた。そのための技術には課題が残る。

#### ○動きだしのタイミング

⇒ 上記ポゼッションを高めるために、お互いの状態を観ながら動き出すことの意識が高まってきた。

## <課題>

### ●ボールコントロールの技術

⇒ハイプレッシャーでも精度の高い技術の発揮に課題が残った。コントロールができないためにボールを失ったり、失点する場面が多かった。

□トレーニング環境の見直し、特に厳しいディフェンスへの要求を高めていくこと。その環境でトレーニングを継続していくこと。

### ●観ること・判断すること

⇒オン・ザ・ボール、オフ・ザ・ボールともに判断するための材料となる観ることによる情報収集の習慣づけが足りていない。

□引き続き習慣づけのためのコーチングを続けていくこと。選手個々に判断できるための、プライオリティの整理やグループ戦術の理解を高めていくこと。

### ●守備

⇒プライオリティの整理が定着不十分と思われる発言、行動が見られた。

□原則の確認、定着を十分に図るためのトレーニングを行う。

### ●GK

⇒GKを含めたポゼッション時などにプレッシャーをかけられ失点することが多かった。最終ラインのDFとしての技術・判断力やDFとのコミュニケーションに課題がみられる。

□FPとして練習参加時にはより高い要求をしていく。また、GKとしての基礎技術（セービング、キャッチング、ブレイクアウェイ、基本姿勢等）の向上のため本年度は未実施に終わってしまったGKプロジェクトも行っていきたい。

## 6, 全体講評

大会の結果としては、過去にない悪い結果となってしまった。課題にあげた点によるものが、原因の大部分としてあげられる。理想とする姿を「攻撃は、プライオリティを守りながらも失わない、アクションとギャップの共有など。守備は、粘り強い1対1、マークとカバー、とにかく原則を守る。そして厳しく。」とし、協会推奨の2-3-2 マッチアップシステムで挑んだ。そのことにより、結果的に（個の技術・判断がまだ不十分なため）リスクな戦い方を貫き、ミスからの失点を重ね、選手のモチベーションを低下させてしまうことにつながってしまった。実際失点のほとんどは、ポゼッション中のコントロールミスやコミュニケーション不足に起因するものが多かった。

ミスの原因はハイプレッシャー下での技術の発揮が十分にできなかったことが第一にあげられる。これは普段のトレーニング環境がまだハイプレッシャーと言えないことで技術を向上させていけなかったことによるものと考えられる。天井効果を排除し、高いトレーニング環境を与えるトレセンとしての役割を果たしていないことは技術部の大きな反省として挙げられる。これからは、さらにハイプレッシャー、ハードワークが当然の環境作りを進めていきたい。

また、GKの技術向上に対する技術部としての指導體制づくりの必要性も痛感した大会であった。大会期間中、以前釧路技術部でGKを担当していた苦小牧の奥野コーチが釧路の選手のトレーニングやプレー分析を行っていただいた。そのことによって、GKの意識も向上していったことを考えると、釧路でもGKに関しての強化に関しての体制づくりを進めていきたいと考えるので、各チームのGK指導者にも協力をお願いしたい。

結果がともなわない中でも、大会を通して選手達は今までのトレーニングの成果を活かそうと、ミスを改善していこうと真面目に取り組んでいた。その前向きな姿勢と結果が出なかった悔しさをこれからのトレーニングに活かして行きたいと考える。

最後に本大会に参加するにあたり、多大なるご協力をいただいた各チーム関係者の皆様、日々のトレーニングをさせてくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともトレセン活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

文責：釧路トレセン5年担当 後藤雅宏